



## 2017年 グローバル市場の見通し

当資料は、マニユライフ・アセット・マネジメントのアセット・アロケーション部門および各資産の投資スペシャリストによる2017年のグローバル市場の見通しをご紹介します。マニユライフ・アセット・マネジメントは、カナダ・トロントを本拠地とする総合金融グループのマニユライフ・ファイナンシャル社の資産運用部門です。

### <株式>

地域	市場見通し
グローバル	当面は過去平均リターンである10%の半分程度の期待リターンになると予想しています。個別銘柄では、企業の国籍に関係なく、流動性、バリュエーション、健全性の面で優位にある企業、特にマーケットリーダーとして認識されており、持続的なキャッシュフローを創出する力を持っている企業に注目することが重要と考えます。セクター別では、引き続き、安定的で健全性の高いヘルスケアや生活必需品といったセクターについて強気に見ています。
米国	バリュエーション面では他市場に比べて全体として割高感がありますが、米国企業の健全性は群を抜いており、投資家の米国株式選好は今後も続くと考えられます。新政権がヘルスケアセクターに恩恵をもたらす可能性は高く、また、特に金融セクターや資本財セクターについては、減税、財政出動、金融規制緩和等の政策が実現すれば、将来の収益予想が低すぎたという結果になることも十分にありうるでしょう。
カナダ	カナダは、計画的な財政政策と通常の金融政策を運営できている数少ない先進国であり、経済およびカナダ株式市場には強気の見方をしています。原油価格は安定して推移する公算が高く、その場合には需給が均衡すると考えられるため、エネルギーセクターが有望と考えています。また、住宅ローン規制強化により銀行の健全性が高まり、市場の期待通り金利が上昇すれば、金融セクターにも良好な環境になると考えられます。
欧州	欧州経済は量的金融緩和により着実に回復しています。また、ユーロ安によって輸出企業は恩恵を受けました。企業の利益率も米国企業の水準にまで回復してきていることから、欧州株は大きく上昇する可能性があります。ただし、英国のEU離脱、難民問題、各国で予定されている大統領選挙や議会選挙などによる地政学的リスクは高く、不確実性が高い環境下にあるため徹底的な企業分析の必要があると考えます。世界的な金融緩和状態が続く中では、引き続き金融セクターに投資機会があると考えています。
日本	グローバル比較で低い水準にあった日本企業の自己資本利益率(ROE)は改善しており、バリュエーションは魅力的な水準となっています。株主重視の取り組みについては、投資家は裏切られ続けてきましたが、今回は本物であると考えています。日銀が金利誘導から長短金利操作に対応を転換したため、引き続き金融セクターに投資機会があると考えます。
エマージング	エマージング株式市場については全体的に強気に見ており、グローバルの中で5年の期待リターンが最も高くなっています。また、バリュエーションも魅力的で、多くの成長機会があると思われます。米ドル高や保護貿易政策の実現はマイナス要因になりますが、多くの投資機会がローカル市場には存在します。中国に対する良好な見通しを維持するとともに、現時点ではニュー・エコノミーとクリーンエネルギー関連の企業などに投資機会があると考えています。
アジア (除く日本)	米国の景気刺激策は、受注増が見込まれる産業関連のアジア北部の企業にとって恩恵があると考えられます。また、米国の金利上昇トレンドが落ち着くにつれて米ドル相場が安定し、欧州地域での一連の選挙が終息することで、東南アジア経済も堅調になることが期待されます。銀行と不動産は、2017年以降金利が正常化するにつれて回復することが期待されます。またアジアではインフラや貿易構造の変化にも投資機会があると考えます。

## <債券>

地域	市場見通し
グローバル	超低金利やマイナス金利状態は持続困難で、今後3-5年はグローバル債券のリターンは弱含むと考えます。ただし、低インフレ、低成長の環境は継続し引き続き利回りニーズは高いと考えられることから、十分なインフレ対策ができていれば、グローバル債券を長期に保有する意義はあります。今後の金利上昇局面に対応できる変動金利のバンクローンに投資機会があると考えます。
米国	インフレや政策による逆風も予想されますが、社債については投資機会があると考えています。金利上昇は銀行や保険会社などの金融セクターに恩恵をもたらすと考えます。また、住宅関連にとっては金利上昇がマイナスの影響となりますが、ミレニアルズ世代や新規購入者などの低所得者層からの住宅需要は強いいため投資機会があると考えています。また健全な需要が続いている自動車セクターについても投資妙味があると考えています。
エマージング	エマージング諸国は、ファンダメンタルズが良好な状態にあり、全体としてポジティブに見ていますが、現地通貨建て債券よりも米ドル建て債券に強気な見方をしています。世界的にインフラ投資が行われることによりコモディティ需要が集中する局面に入る可能性が高いため、資源輸出国であるブラジルとロシアに注目しています。特に、ブラジルは輸出について米国経済への依存度が相対的に低く、2017年は低インフレかつプラス成長が見込まれていることから選好しています。

## <商品市況(コモディティ)>

地域	市場見通し
グローバル	商品市況は、依然として多くの商品項目において供給過剰の状態にあることから、商品市況全体の上昇というよりは、選別的な上昇になると考えられます。原油は、供給過剰の状態が改善されてきていることから、WTI原油先物価格は引き続き変動性が高いと考えられるものの、1バレル65米ドルを目指す予想します。鉱物については、一部に期待先行で上昇している感もありますが、金属は需給バランスの改善が見られることから引き続き良好な見通しです。

### 当資料に関する留意事項

- 当資料は、マニライフ・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」といいます)が、投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、特定の投資商品の推奨を目的としたものではありません。
- 当資料記載のデータや見通し等は、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、正確性、適時性を保証するものではありません。
- 当資料の内容およびコメントは資料作成時点における経済・市場環境等について当社の見解を記載したもので当該見解は予告なく変更される場合があります。将来の経済・市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 各指数に関する著作権等の知的財産、その他一切の権利は、各々の開発元または公表元に帰属します。
- 投資信託のお申込みの際は、必ず最新の投資信託説明書(交付目論見書)で商品内容をご確認の上、ご自身で投資のご判断をお願いいたします。
- 当資料に関する一切の権利は、引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部または全部の無断での使用・複製はできません。

**マニライフ・アセット・マネジメント株式会社**  
**金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第433号**  
**加入協会:一般社団法人投資信託協会**  
**一般社団法人日本投資顧問業協会**